

自社の時価総額を上回る海外企業を、約6兆8000億円で丸ごと入手。武田薬品工業によるアイルランド製薬大手シヤイアードの買収計画は世界に衝撃を与えた。だが、武田社長のクリストフ・ウエバーに賛成は感じられない。従来進めてきた研究開発改革の方針性は正しく、シャイアー買収によってこれを加速できると判断しているためだ。一方、日本の老舗企業として培った伝統や価値観は堅持する考え。武田は「和魂洋才」の本領を發揮し、世界を先導する存在になれるのか。

武田薬品工業

する企業



A portrait of Christopher W. Weber, President of Takeda Pharmaceutical Company. He is a middle-aged man with short, light-colored hair, wearing a dark suit, white shirt, and blue patterned tie. He is gesturing with his right hand near his face while speaking. The background features a large, faint red Takeda logo on a white wall.

シャイアー買収計画を説明する武田薬品工業の クリストフ・ウェバー社長

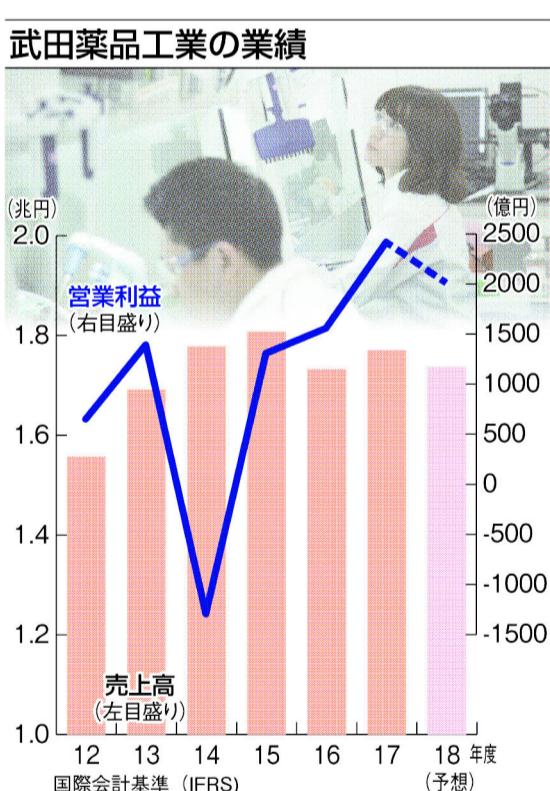
R&D大改革の進捗には満足している。ウェバーは、これまでの戦略がうまくいかなかつたから考えたのではない。研究開発の変革や生産性向上器・神経精神疾患を重視する。ウェバーは、こう強調する。

和魂洋才 世界のリーダーへ

点疾患領域と定め、他の領域の事業や開発品を手放すなどした。さらに16年7月、創薬研究部門を日本と米国に集約すると発表。取締役会議長の坂根正弘（「マツ相談役」）は、「このときのR&D大改革が『世界の武田』への転換点だつた」と振り返る。

一方でウェバーは、大きな伸びに寄与した。武田が紡いできた歴史には敬意を表する。誠実・公正・正直・不屈をうたつた経営哲学の伝統と革新のバランスをもたらす、創薬に苦戦してきたことがある。武田は自社で創製した抗潰瘍剤や高血圧薬などを90年代に相次いで発売。いずれもブロックバスター（世界売上高が1兆円超の大製薬）は、000億円超の大製薬である。武田社員）。「ミレニアムを買収しないなければ、本当に危なかつた」（古参の「ミレニアムを買収しないべきだ」と主張し、シヤイアーブーは、本社を海外へ移すのではないかとの観測を全面的に否定している。

下へ収めた米バイオ医薬品企業ミレニアム・ファーマシューティカルズ由来の製品だ。なく本社を日本に置く社だから、議論の余地はないかとの観測を全面的に否定している。



三井製品であります
（消化器領域の新薬）

「おいた方がよい」。武田は改革の成果を開発品の充実という形で示せるのか。UBSの関は「シャイア一買収後に何も出てこなければ、もう一回大きなM&A（合併・買収）をやってもおかしくない」と指摘する。シャイアを統合できたとしても、ウェバーの試練は続く。（敬称略）※あすからヘルスケア面に掲載します。

「の理由」と高く評価。さらに「日本の今社だから、議論の余地なく本社を日本に置るべきだ」と主張し、シヤイアーチ買収に伴つて本社を海外へ移すのではないかとの観測を全面的に否定している。

無断転載・複写禁止©(株)日刊工業新聞社